

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200446		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所おうか		
所在地	佐賀県唐津市相賀5134番地2		
自己評価作成日	平成27年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年2月25日	外部評価確定日	平成28年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①閑静な環境のもと、ゆったりとした時間を過ごすことが出来ます。②季節の野菜を職員と一緒に植えたり収穫したりして、それをどのように食べようか等、楽しく話しながら、皮むきを手伝ってもらったりして調理し、一緒に頂いています。③入居者様が出来るだけ元気でいられるよう、1日1回必ずラジオ体操と立ち上がり・足上げ運動を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりと向き合い、想いに応えようとする姿勢は全ての職員に共通している。開設時に作られた理念の再検討を試みたが、全職員で文言もそのままに継続するという選択をした。それは理念が既に根付き始めた証である。「職員は優しさと笑顔を絶やさず、利用者には温かく快適に過ごせるホームを」という理念に添ってケアに努めている。職員同士のチームワークも良い。また、毎日の運動(足上げ等)は利用者自ら始める程に定着している。機能低下を防ぎ、現状を維持することの難しい高齢者にとっては嬉しい効果が表れている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念を作成し、毎朝職員全員で復唱している。また、その理念に近づくために何が出来るかを考え実践している。	理念は開設時に管理者によって考えられたものである。昨年、ケアに関わる全ての職員で見直しをしたが、現行のままで良いという結論に達し、尚一層の励行を各々が意識している。利用者一人ひとりに向き合い、意向を確認しながらケアにあたる姿勢にはそれが活かされているのうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を見学したり、職員と入居者様とで作成した作品を展示したり、家族や民生委員等を招き、敬老会やクリスマス会などを開催している。	自治会への加入はないが、地域の一員として区長から情報等も届けられている。行事を見学するだけではなく清掃活動等へ参加の意思があることも当初から伝えている。立地上、民家は多くなく、普段の立ち寄りなどは少ないが、折にふれ交流が深まるよう努めている。見守りや連絡を頼める関係も築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	限られた人数の中で可能な限り、認知症に関わる研修を受講するように努めている。また、社会福祉協議会が開催する家族介護者交流事業で、認知症に関する勉強会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月第3木曜日に運営推進会議を開催し、入居者様の状況やヒヤリハットなどを毎回報告し、意見やアドバイスを受け、それに基づき改善を図っている。	開設から約2年が経ち、この会議は徐々に理解者や応援者が増えるきっかけとなっている。メンバーの出席率は高く、双方向の意見交換ができています。例えば、些細な点でもヒヤリハット事案で挙げていることは、外から見た貴重な意見がもらえ、自らにも注意喚起するよい機会となっている。議事録はきちんと整理され流れが見て取れる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度に関する疑問点等はその都度、市の担当者に確認・相談を行っている。また、市からの数々の調査に対しても、確実に報告しており、日頃から密に連絡・報告を行っている。	運営推進会議のメンバーでもあることから日頃から顔なじみである。疑問点などがあれば電話を掛けることも多く、実直に対応してもらえる関係が築けている。服薬支援のアドバイスでは、薬剤師を招いての勉強会が提案され、早速具体的に検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルを作成している。夜間以外の施錠は行っておらず、センサーを取り付け対応している。職員全員が身体拘束なしをモットーにケアを行っている。	全ての職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。入居時には家族へ説明もしている。研修を受けた職員は事業所内に周知する役割を担い、勉強会を行っている。利用者は行動を抑えられることなく、職員間の連携プレーで安全な生活が支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時に虐待防止についての研修に参加。入浴時等には、全身の観察を行っており、皮膚等に気になる異変等がある場合は、管理者やその他の職員に報告、原因を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方はいないが、職員が受けた管理者研修の中で成年後見制度について学んだ事を職員全員に周知・伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分に時間をかけ、一つ一つ説明を行い、理解・納得をしていただいた上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わりや、定期アセスメント時に意見・要望を聞くようにしており、意見・要望があったときには、対応出来る内容については、職員に周知・対応している。	家族の訪問は多い。日頃からコミュニケーションを大切にしており、来所時には気軽に話してもらえるよう努めている。通院で家族と会う時間も同様である。ケアプランへの反映など、出された意見は前向きに活かす姿勢がうかがえる。また、事業所の外に苦情や相談の窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員とその都度話せる状況を作っている。また、月1回の職員会議でも意見や要望を言える機会を設け、意見を聞いている。	毎月1回、午前中に開く職員会議では宿直明けの職員も参加し活発な意見交換の場となっている。皆で考え、皆で実行をモットーに、会議では忌憚のない意見が出されている。分かり易い服薬管理や、センサーマットの位置に印を付けておくアイデアも職員の気付きからである。管理者は日頃から職員との会話を大切にしており、職場としての雰囲気作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務評定を行い、勤務状況を把握している。また、介護職員の処遇改善に取り組み、職員の熱意と積極性の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勤務評定を行い、介護等の力量の把握に努めている。また、限られた人数の中で、年間研修計画意外にも、できる限り沢山の研修に参加出来るようにしている。また、自社組織全体での研修会にも定期的に参加、職員間で知識を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催のグループホーム連絡会に参加し、勉強会や講座等を通し、ネットワーク作りに努めながら、その情報をもとに、他職員に復命しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には少なくとも2時間以上の時間をかけ、じっくりと話を聞くことで、本人の不安や悩みを打ち明けやすくし、施設入所が安心したものになるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には少なくとも2時間以上の時間をかけ、じっくりと話を聞くことで、本人の不安や悩みを打ち明けやすくし、施設入所が安心したものになるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には少なくとも2時間以上の時間をかけ、ご家族の本当の気持ちや、その状況等を詳しく理解することからはじめ、「今どうして欲しいか」「何が必要なのか」を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その人の能力に合わせ、掃除や洗濯物、食事の後片付け等、職員と一緒にっており、食事も職員と一緒に摂取している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には最低月1回は面会に来て頂き、ご本人と接する機会を作って頂けるよう勤めており、定期的に行事を開催し、ご家族とのふれあいの場を提供している。また、可能であれば他科受診はご家族でと勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人・友人に可能な限り、面会に来て頂けるよう、その都度お願いをしている。ほとんどのご家族が月に数回訪問される。	入居時には本人や家族はもちろん、担当のケアマネジャーや利用していた施設等からも情報を集めている。それを基に家族とも相談しながら支援に努めている。具体的には日々の電話の取次ぎ、お盆やお正月等の外出である。本人から希望することは少ないが、職員は傍らでゆっくりと話をしながら想いに応えようとしている。理美容院については資格を持った家族の厚意で事業所内で済ませている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者様同士の関係を見て、意見も聞きながら把握し、職員間で話し、より良い関係でいられるよう、席を変更したり、職員が代弁したりして関係が悪化しないよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の実績なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度ご本人に対し、意向の確認を行っている。	日中、リビングで寛ぐ利用者の側で職員も一緒に座りながら話をしている時など、想いが聞けることがある。それらはケース記録に残したり、また職員同士が会話の中で共有していくこともある。日頃の関わりの中で利用者の想いを汲み取り、理念にあるような暮らしとなるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生時から現在に至るまでの生活歴についてアセスメントを行い、その人の生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常日頃から入居者様と関わりを持ち、個々の現状把握に努め、新たな発見や変化等があればその都度ケース記録やホーム日誌に記録、朝・夕の申し送りにて報告・情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より面談や電話にて、本人やご家族の考えや要望等を把握し、その都度職員に伝え、情報を共有している。また、評価時には職員や家族で現状を話し合い、意見等を踏まえた介護計画を作成している。	日頃のケアの中で把握したことや、来所時に聞き取る家族の意見や希望を基に介護計画が作られている。例えば、入居前にドライブ好きであった利用者には毎日の食事を受け取りに行く職員と同行することで希望を組み込み、生活の中にプランとして活かしている。また、見直しは設定期間毎ではあるが、変化があればその都度、臨機応変に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容等は、個別のケース記録に記録し、ホーム日誌の伝達事項に記載して、職員間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のご本人やご家族との関わりの中で、希望・要望等が生まれた際には、できる限り意向に添えるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加(見学)したり、作品を展示するなど、地域との交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常日頃から、かかりつけ医との連携を図っており、些細な事でも医師に報告・指示を仰ぐようにしている。また、結果をご本人や家族に報告している。	入居後にかかりつけ医を協力医へ変更してもらうことを基本としている。その際にはきちんと説明を行い了承を得ている。定期受診には職員が付き添い、結果に変化がなければ家族が来所した折りなどに報告している。専門医等は入居前からのかかりつけで受診できるよう支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、日々の健康状態を管理者に伝え、管理者が医師と連携をとることにより、適切な健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関への同行、診察の立ち会い時には経過等の情報提供を行い、定期的な面会を行い、現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に当施設のターミナルケアについて家族へ説明し、同意を得ている。また、近い将来ターミナルとなりうるケースについて、主治医、家族、施設と3者で面談し、終末期のあり方について話し合いを行っている。	これまでに看取りの経験はないが、希望があればその用意はある。但し、事業所としての方針や体制に理解が得られた場合である。容態や気持ちに変化があればその都度、何度でも話し合いを重ね、本人や家族が安心して納得のいく最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。感染症対策についての研修会や緊急時の対応についての研修に参加し、職員全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て火災訓練を実施。災害発生時のマニュアルを作成している。また、消防用設備の点検も定期的に行っている。	年2回の訓練は夜間も想定し、日中に実施している。そのうち1回は消防署も立ち会っている。地域住民の協力が必要なことは理解しているが、周辺に民家は少なく参加は難しい状況である。利用者は職員と一緒に避難を体験している。その際の反省点や消防署からの指摘などはきちんと整理され、改善は速やかに行い周知されている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。非常食や水の備蓄もある。一次避難場所を広い敷地内の外れとしているが多少の段差もあることから今後の検討課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念にも利用者様の尊厳を掲げており、職員全員が念頭にいれ、ケアにあたっている。また、常にプライバシーの保護や優しい言葉かけを心がけている。	年長者として敬意を払い、トイレへの誘導や入浴の介助にも羞恥心に配慮したケアを行っている。年1回は法人内で接遇研修もある。もしも管理者が不適切な場面に遭遇すれば即座に別室で注意をすることになっている。理念に掲げた想いは個人情報にも繋がり、その意識は高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を促す言葉かけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人やご家族の希望は可能な限り対応するようにしている。生活習慣や身体状況などに配慮しながら、ご本人やご家族の思いを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあっているか、汚れてはいないか、乱れはないか、爪、また、男性では髭が伸びていないか等、気をつけている。2ヶ月に1回、ご家族の協力により、散髪に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食と夕食は地域で人気のレストランに委託している。品数が多く、旬の食材を使った食事で、入居者様にも好評である。毎日の朝食や日祭日は職員と一緒に作れるよう、ホットプレートを使用したメニューにしたり、日頃から後片付けは入居者様と一緒にやっている。	平日の副食はレストランに委託し、ご飯のみ炊いている。利用者に食欲はあり、介助が必要な方の支援をしながら職員も一緒にテーブルを囲んでいる。日・祝日は事業所での調理となるが、利用者に食べたいものを尋ねながら提供している。また、誕生日には家族の参加もあり、一緒にケーキを手作りする等して全員で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック票に摂取量を記録。個々の体重を定期的に観察し、適宜増減。また、心臓病や高血圧などある方への塩分や水分の管理や嚥下機能低下の方への食事介助方の工夫等、個々に合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じ、毎食後口腔ケアを行っている。義歯の不具合や痛み等ある場合は、協力歯科医に訪問診療をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンの把握を行っている。また、オムツを使用されている方でも、時間おきにトイレに誘導し排泄を試みている。	便座に肘掛けや背もたれを設置していることで姿勢保持や立ち座りの補助となりトイレでの排泄を助けている。自立している利用者も数名いるが、職員はさりげなく行動を見守りながら排泄を把握している。チェック表から膀胱炎等の発見に至った例もある。夜間でもトイレへ起きる利用者に寄り添いながらケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況に配慮しながら、日頃より運動や水分摂取を促している。それでも便秘になる場合は主治医へ相談し、緩下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	家庭的な一般浴で、マンツーマンによる介助にて入浴して頂いている。現実的に夜間の入浴は困難であるが、出来るだけ近づけるよう、午後に入浴時間を設けている。	入浴は週3回を目安にしているが、必要があればいつでも可能である。日頃のケアの中で利用者毎の特徴を掴んでいるため、拒まれるケースは殆どなくスムーズな対応ができています。浴室にはバスボードや浴槽用手摺りもあり、安全に入浴が楽しめるよう工夫されている。冬場の脱衣場は温度管理され、衣服の脱ぎ着もできるだけ本人に任せ、職員は見守りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人やご家族からの希望や、健康上休息が必要な場合、いつでも安静臥床ができるよう対応している。少しでも安心して頂くために、枕や布団はできるだけ使い慣れた物を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は個別のファイルに綴じ、いつでも閲覧出来るようにしている。追加や変更等があった場合は処方内容や注意事項など、その都度ホーム日誌にて職員間周知を図り、その後の経過観察を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことややりたいことを見つけ、草むしりや掃除、洗濯物干し・たたみ、茶碗洗い等、出来ることは職員と一緒にを行い、少しでも充実した生活となるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り職員が付添い外出できるようにしている。毎週日曜日をドライブ日と決め、入居者様の希望を聞きながら、天気の良い日にはドライブしている。	戸外へ出ることは五感の刺激にもなるとの思いから努めて外出を支援している。天候や体調をみながらではあるが、日曜毎のドライブはその表れである。車椅子対応車両の所有もあり、全く外へ出ない利用者はいない。建物の側にはベンチもあり、広い敷地内の散歩や日光浴も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が金銭管理ができない方であり、すべてご家族が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解のもと、希望時にはいつでも電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、居間等の共用の空間は常に清潔が保てるよう、こまめな清掃を行って、障害となるものは置かず、季節の花を飾ったり、温度や湿度にも気をつけている。	建物の長さそのままの廊下は、時に歩行練習場にもなる。端から端まで手摺りを伝いながら、またはゆっくりと歩を進めながら利用できる。中央にあるリビングでは利用者が日中の殆どを過ごし寛いでいる。温度、湿度には特に配慮している。廊下に飾られた月毎の大きな貼り絵は、利用者みんなで作成、季節が感じられるデザインになっている。掃除は職員が行うが、手伝ってくれる利用者もいる。トイレや浴室はきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングにはテレビとソファがあり、テレビを見たい人はそこでテレビを見ることができ、一人になりたい場合は居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ使い慣れた馴染みのあるタンスや布団類を持ってきて頂くようお願いしている。	居室には火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。仏壇を置く利用者もいる。家族や担当の職員によって部屋の飾り付けも行われ、それぞれの誕生日に贈られた色紙や家族の写真が和ませている。衣替えも同様である。家族の希望があれば居室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃関わりの中で、個々の出来ることを見つけ出し、出来ることあれば職員が付添い見守りながら、安全を確保して行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない